

三重の祭り(12月～2月)

ピーヒヤラ、ピーヒヤラ、ドンドコドン。笛や太鼓が奏でる独特的の音色、大勢の人々の弾んだ声、ずらりと並ぶ屋台や幻想的な灯り、寺社の境内で繰り広げられる伝統の技…。

「祭り」には、神仏への感謝、祖先や死者への鎮魂、大地の恵みへの祈願など、さまざまな祈りが込められています。三重県内でも、それぞれの地域の歴史や風土と結び付いた魅力ある祭りが受け継がれ、私たちの胸を熱くしてくれます。

今回は、12月から2月までの間に行われる三重の祭りをご紹介します。

*12月から2月にかけて県内で行われる祭りは数多く存在します。今回紹介するのは一部です。

*各祭りの内容や開催日時、開催場所、見学方法などには違いがあり、状況に応じて休止・中止する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文：中村 真由美・中村 元美・堀口 裕世
中川 納美子

撮影……梅川 紀彦・松原 豊・尾之内 孝昭
中村 元美

ただし※印の写真は取材先から提供していただきました



発祥の地で年に一度奉納される、圧巻の伝統芸能

伊勢大神楽

毎年12月24日の午後、増田神社では年に一度の祭礼が行われ、境内は熱気に包まれます。伊勢大神楽の総舞が奉納されるのです。

伊勢大神楽は、伊勢神宮に参拝できな人々のために各地を回り、神楽を奉納する祭事。舞(獅子舞)と曲(放下芸)で構成され、獅子舞には悪魔を祓つて幸福を与えるという意味が込められ、放下芸は人々を楽しませるための曲芸を表しています。国の重要無形民俗文化財にもいます。国の重要無形民俗文化財にも

願する「水の曲」などが披露されます。技が決まるたびに、歓声が上がります。最後を飾るのは、花魁姿の獅子が肩の上に乗る「魁曲」です。艶やかさに魅了される一方で、修練の積み重ねを感じます。

「桑名は伊勢大神楽発祥の地ですが、意外と知られていないのが残念です」と話すのは、山本勘太夫さん。平成26(2014)年に9代目を襲名し、自らの修練の傍ら、後進の育成にも尽力する日々を過ごします。郷土の誇りである伝統芸能を「若い人たちにも知つてもらいたい」と語ってくれました。

本年の祭礼の日まであとわずか。本拠地桑名で、圧巻の舞と曲を堪能してはいかがでしょう。

お問い合わせ

「一般社団法人 伊勢大神楽講社」
(代表・山本勘太夫社中)

TEL 0594-73-2788



「綾採の曲」(右 山本 勘太夫さん)※



「水の曲」(皿の曲)※



「魁曲」※

※印の写真は取材先から提供していただきました。

正月堂の修正会

【伊賀市島ヶ原】

旧正月の法要を守る人々の想いが結集

とは、五穀豊穣や天下泰平などを祈願して、お正月に行う法会（法要）のこと。そのため、同寺は古くから「正月堂」と呼び親しまれています。

現在、修正会

が行われるのは2月11日と12日。11日の大餅会式では、講ごとに行列を組んで正月堂まで練り歩きます。

講は、修正会を行うために結成された住民組織で、現在は「元頭村」「西方」「中矢方」「白黄会」「聖風講」「子供節句之頭」の7組があります。各講の人々が手にして



2月9日、元頭村では古式に則った大餅搗きが行われる。* 撮影：山菅 善文

凍てつく寒さが続く旧正月のころ、観音寺では古式ゆかしい修正会（県指定無形民俗文化財）が行われます。修正会

は「元頭村」「西方」「中矢方」「白黄会」「聖風講」「子供節句之頭」の7組があります。各講の人々が手にして

いるのは、鬼の頭の形をしたユニークな飾り物や、餅をサクラの枝に付けた成花などに加えて、直径約30センチメートルもある円柱形の餅5つ。「エトオーッ」（法要）のこと。そのため、同寺は古くから「正月堂」と呼び親しまれています。そして、正月堂の住職はじめ数人の僧侶が、体を打ち付ける五体投地に続いて、本尊が安置された厨子の周りを牛玉杖で力強く打ちつけます。これは「眠り観音」と呼ばれる本尊の木造十一面觀音立像（国重要文化財）を目覚めさせるためだといわれています。そして、法螺貝や太鼓や鉦などを乱打する中、水天と火天の舞が繰り広げられます。大音響の中で行われる荒行は、「達陀行法」といわれます。



山菅 善文さん



池田 周硯さん

な法要が終了した13日には鏡開きが行われ、供えた大餅を切り分けて関係者に配ります。皆で一緒に供物やお酒などをいたぐり儀式（直会）を終えると、やがて島ヶ原に春が訪れます。

「私たちにとつては、修正会は前年の12月から始まっています」と教えてくれるのは、池田周硯さんです。池田さんは、「中矢方」で本年の頭屋（当番）を務めました。話を伺うと、役割分担を決める事始めに始まり、山の神に参拝した後にサクラやマツなどの道具となる枝を伐り出し、鬼頭や成花などを新たに手作りする傍ら、2月9日には皆で大餅搗きを行

うなど、想像以上に多くの儀式が続くことがわかりました。そのため、かつて存続した講のいくつかは解散し、「中矢方」も活動を休止していた時期があつたといいます。それでも再び活動を開始した池田さん。その理由を聞くと、「祖父も父も続けてきた伝統を絶やしたらいい」と、力強い答えが返ってきました。池田さんの想いは、正月堂の堂番（本堂の管理人）を務める山菅善文さんはじめ、島ヶ原の人々にとつても共通で、近年は女性や子どもたちも講に参加しています。

1250年以上の歴史を有する修正会を守り続けているのです。



頭屋に授けられた牛玉札

お問い合わせ
観音寺 社務所
TEL 0595-59-3080

来たる2月11日と12日、人々の想いが結集した正月堂の修正会の迫力を、間近に感じてみてはいかがでしょうか。

なお、本尊の開帳は33年に一度のみですが、来年度中に「東京国立博物館」で展示公開される予定です。

達陀行法

撮影：山菅 善文

観音寺本堂（国重要文化財）

観音寺本堂（国重要文化財）

※印の写真は取材先から提供していただきました

4

3

真宗高田派本山専修寺 報恩講（お七夜）

【津市・身田】



16日だけに行われる御参廟(大行列)※



きらびやかな御影堂の中での法会※



宝物館の「燈炬殿」※



御影堂(手前)と如来堂(奥)は
いずれも国宝



山門は専修寺伽藍の総門



幻想的な竹あかりの光※

ています」と、
門は広く開か
れていると話
されます。

が境内に開かれます。「お淨土がこの地
に出現したかのよう、安らぎのある美
しい光景です」と千賀さん。竹あかりと
同時に演奏会が開かれる日もあります。

ほかにも、新
宝物館「燈炬殿」
の宝物展示や普
段は非公開のお
庭「雲幽園」、茶
室「安樂庵」の見
学ができるなど、
お七夜中は特別
な催しがたくさん
予定されています。

お七夜の期
間だけは、境
内に提灯がと
もされ特別な
夜の風景が樂
しめますが、
夜の見どころの一つは、東海最大級とい
り作家・川渕皓平さんのプロデュース
で、こども竹あかりなどを含む光の芸術



三重県史跡名勝「雲幽園」※

ます。
またこの期間は、専修寺内だけではなく、近隣のまちにとっても年に一度の大きなお祭り。寺内町一帯が露店やイベントなどで大いににぎわいます。

一週間にわたるお七夜。お念佛や法話に親鸞聖人を感じたり、美しい光景に精神を開放したり、露店を巡ったり、イベントに参加したり、国宝や文化財に接したり、人それぞれの楽しみ方があります。

お問い合わせ

真宗高田派本山専修寺総合案内所
TEL 059-232-7234



国宝の御影堂に幕が張り巡らされ、華やぐ境内※

毎年1月9日から16日まで、この専修寺で行われるが真宗最大の法会「報恩講」。一般には「お七夜」とし

て、一身田の新年の風物詩となっています。

またこの期間は、専修寺内だけではなく、近隣のまちにとっても年に一度の大きなお祭り。寺内町一帯が露店やイベントなどで大いににぎわいます。

お話を伺ったのは、参拝課主任で宝物館事務担当の千賀光真さんと参拝課で広報担当の千賀俊光さんとのお二人。「報恩講は、親鸞聖人を偲ぶ法会です。聖人が亡くなられた1月16日(旧暦11月28日)に向けて、七昼夜にわたってお勤めが行われる、1年の諸法会の中で最も大切な法会で、日本中の各地から、たくさんの方が来てくださいます」と千賀さん。千賀さんも「勤行のほかにも、講演やお説教、親鸞聖人の生涯の物語を描いた『御絵伝』が掲げられるなど、真宗に親しんでいただけるような催しがたくさんあります。広く衆生を救うのが真宗の教えですので、宗派や信教にかかわらず、皆さまに楽しんでいただきたいと思つ



千賀 光真さん



千賀 俊光さん

冬の夜、火の粉とともに舞う勇壮な神事 東大淀の御頭神事

【伊勢市東大淀町】



火の粉が巻き上がる中で、御頭が火の中に飛び込み悪魔払いをする※

で行われます。なかでも東大淀地区の御頭神事は、400年以上前から続く佐登奈加神社の神事で、住民の災厄を一身に背負った御頭が炎の中でそれらを焼き尽くす奇祭として、県の無形民俗文化財にも指定されています。

来年の開催は2月7日。以前は旧暦1月11日に実施されて

伊勢市の宮川下流沿岸部を中心とした地域では、1月から2月にかけて飢饉や悪疫を祓うための「御頭神事」が各地に一時休止することに。しかし町民の「伝統をつなげたい」という想いから「子供頭」(小さい御頭)を新たに製作し、小学生から高校生までの希望者が誰でも参加できるようになります。平成22(2010)年から再度復活しました。

祭の当日は、朝9時頃にお宿(參集殿)にて舞を行った後、神楽師らが御頭を担ぎ、町の西側の辻を回り悪魔祓いをします。悪魔祓いとは御頭が剣を持ち、地区の人々の前で剣を何度も振り、厄を祓うというもの。厄払いを受ける人々は皆、腰をかがめ頭を低く下げるなります。道中は所々で「五起こしの舞」や、地区の

四方に当たる場所では須佐之男命が八岐大蛇を退治するようすを表す「七起こしの舞」を披露。午後1時からは佐登奈加神社で御頭の舞いを奉納し、2時からは地区の東側の辻々を回ります。そして夕刻、日が沈むと祭りの舞台は千引神社に移ります。神社の前の広場に積まれた高さ3メートルほどの青松葉の束が神楽師により点火され、大篝火の傍らで火祭りの神事が行われます。悪魔祓いで全ての災厄を引き受けた御頭が篝火の中に入ろうとするのを住民が引き留めるというやりとりを数回繰り返し、最後はついに御頭を担いだ神楽師が炎の中に入ります。神楽師が火の粉を

中に飛び込みます。神楽師が火の粉を蹴り上げ、住民も竹棒でおき火をふりかけ、冬の夜空に火の粉が乱舞する。これがこの神事のクライマックスです。そして御頭は火の粉を浴びて悪魔を焼き払い、村人を守ります。

現在は少子化により人員の確保が難しくなっていますが、かつての「子供頭」のメンバーが神楽師に入るなどよい循環も生まれている東大淀地区。伝統を守り続けています。

後はついに御頭を担いだ神楽師が炎の中に入ろうとするのを住民が引き留めるというやりとりを数回繰り返し、最後はついに御頭を担いだ神楽師が炎の中に入ります。神楽師が火の粉を



紙垂(じで)で覆われた御頭※



御頭の重さは約27キログラム※



佐登奈加神社



ふだんは静かな境内

お問い合わせ
東大淀町民会館
TEL 0596-37-3948

で行われます。なか

口典彦さん。神

楽師とは舞や演

奏、悪魔祓いなど

御頭に関係する

儀式全般を担う

メンバーのこと。

昔は世襲制で、地

区の長男しか入

れないなどの制

約がありました

が、時勢に合わせ

て変化し、現在の

構成員は御頭を

担ぐ舞子と演奏

する笛方を合わ

せて13人となりました。御頭は「神様」で

あり、御頭に触れる神楽師は昔から厳

しい淨めの儀式に挑んできました。神

事の約1カ月前から家族らと寝食を別

にし、祭の前に海垢離・水垢離・湯垢離な

どで心身のケガレを淨めることもありま

した。そんな中、後継者不足により一

時は神楽師が減り、平成19(2007)年



中西 敏彦町会副会長



森 治行町会長



濱口 典彦さん

お手製の宝物や祭文の掛け合いで祈りを捧げる

古和浦山神祭

【南伊勢町古和浦】



鳥居前の広場に祭場を設ける山神祭 ※ 提供：南伊勢町教育委員会

熊野灘のリアス海岸が続く湾状の奥に位置する南伊勢町古和浦は、漁業の町として発展してきました。かつては山から伐り出した雑木などを各地へ搬出し、漁業とともに重要な産業でした。古和浦の正月は7日の山神祭、10日の八幡祭、13日に待ち・大漁祈願祭と行事が続きます。

山神祭は、船が停泊する港と街並みを望む山の中腹で行われます。八幡

山神祭は、船が停泊する港と街並みを望む山の中腹で行われます。八幡山または大木山と呼ばれる山の狭い坂道を5分ほど上ると、右手に鳥居の立つ平坦な広場があり、階段先の八幡神社に山の神が合祀されています。

「堰堤ができる以前は、もっと上の浅間さん近く

に祀られていました。祭りで準備する物はウツギの棚とお供物。魚はソマ(ソウダガツオ)とオコゼが必要です。注連縄に飾る宝物は手先が器用な漁師のお手製です」と古和浦地区の氏子総代長・上村光さん。棚はウツギの枝で高さ80センチメートル、幅30センチメートルに仕上げ、お供物にはトコロ(山芋)や伊勢エビ、懸の魚としてのソマと「秘密の魚」としてオコゼを半紙に包みます。

注連縄へ飾る宝物は、漁業や農業、山仕事に関わる模型で全部で16種類。カツオやサバ、イワシ、タイ、サゴシ、碇に、鋸や鉈、平鉗に鎌などを一対ずつ用意して吊るします。

古和浦は22の町組から構成され、山神祭は輪番制の当番町が主体となつて、氏子総代が補佐をします。当番町から一之当と二之当、そしてカラス役を選び、この三人が行事の中心的役割を担います。



上村光さん

「現在は1月7日の午前に行われていますが、かつてはその前日の6日午後7時より12時まで、皆が集まって酒盛りが行なわれ、7日に日が替わった午前0時に神事が始まつていました」と上村さんが教えてくれます。10年ほど前に開始時間を変えましたが、行事の内容はそのまま受け継がれています。

懐にオコゼをしのばせた一之当と二之当が村内泰平、五穀豊穣、大漁満足を祈願し、その後、一之当が「秘密のウオをなどと声が出ると、「カアー、カアー」と山の中からカラス役の鳴き声が聞こえています。そこで太鼓が叩かれて、鳥居前広場を祭場に神事が始まります。お

祓いを受け、宮司による祝詞奏上、参列

者が玉串を供えた後に、一之当と二之当、氏子総代が提灯を手に、当番町からも数人が付き添い、祠前で掛け合いが始ま

ります。

懐にオコゼをしのばせた一之当と二之当が村内泰平、五穀豊穣、大漁満足を祈願し、その後、一之当が「秘密のウオをなどと声が出ると、「カアー、カアー」と山の中からカラス役の鳴き声が聞こえています。そこで太鼓が叩かれて、鳥居前広場を祭場に神事が始まります。お

祓いを受け、宮司による祝詞奏上、参列者が玉串を供えた後に、一之当と二之当、氏子総代が提灯を手に、当番町からも数人が付き添い、祠前で掛け合いが始ま

ります。

懐にオコゼをしのばせた一之当と二之当が村内泰平、五穀豊穣、大漁満足を

来ると言葉になつて困るものが並び、また追い払うための呪文といわれる「スントーロク」という言葉で撃退します。掛け合いが終わると、参列者全員で初笑い。和やかな雰囲気で祭りが終了します。

カラス役がいたり、注連縄に吊るす宝物や「秘密の魚」と称するオコゼ、そして神饌のトコロに願いの込められた祭文と、山神祭は古和浦特有の興味深い内容の連続。長い年月の間、土地に住む人々の信仰心により、絶えることなく培われています。

お問い合わせ

南伊勢町役場南島庁舎
TEL 0596-77-0001



祠の前で掛け合いを行う



八幡神社に同座されている



山神祭は町指定の文化財



道具や魚の模型が宝物



山の中腹から集落を望む

